

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第11回 究極の「クリエイティブリユース」
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-06-20
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6238

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授 高橋 健司

第 11 回

まるで子ども
のような作品と
思われるかもし
れないが、実は
これと同じ部品
を用いたピカソ
のオブジェがパ
リの美術館にある。作品名は
「ブルズ・ヘッド」(雄牛の
頭)。鹿と牛の違いはあるが、
どちらも「見立て」の発想が

光る作品である。
ちなみに、連載の第2回で
触れた平田「一式飾り」の「海老」
も、同じ自転車用品一式で作
られている。「海老」を見たら
ピカソもきつと驚くと思う。
平田では「海老」を常設して
いるので、ご自分の目で確か
めてほしい。
それはさておき、古い自転
車の部品がピカソの創造性を
刺激したと思うと、たかが廃
材、ただの道具など侮るこ
とはできない。暮らしの道具
を用いる「一式飾り」もまた、
「クリエイティブリユース」
の考え方に通じるのではない
かと思えてくる。

前回はイタリアの美術館で
開催された「ワタノハスマイ
ル展」のワークショップに触
れたが、欧米では「クリエイ
ティブリユース」の活動が盛
んである。

「クリエイティブリユース」

と言っても、耳慣れない人が
多いと思う。「クリエイティ
ブリユース」とは、廃材を再利
用した創作活動をさす。日本
では「リサイクル」の方が一
般的だが、資源を有効利用す
ることよりも、人間のクリエ
イティブイティ(創造性)を
育むことに重きを置いた、よ
り積極的な意味が込められて
いる。

写真をご覧いただきたい。

これは私が所有する「アーバ
ン・アントラー」(都会の鹿の
角)と名付けられた作品であ
る。カナダ人の作家が制作し
た。何をj用いているか、お分

究極の「クリエイティブリユース」



そこで私は2017年9
月、岡山の玉島に「クリエイ
ティブリユース」のラボ(実
験室)を開いた大月ヒロ子さ
んを訪ねた。大月さんは東京
の美術館の学芸員を経て、世
界中の「クリエイティブリユ
ース」の活動現場を訪ね、創作
活動の拠点を故郷に設けた。
玉島は縫製業が盛んで、ラ
ボには使われなくなったボタ
ンやラベルなど、さまざまな
道具が色や形ごとにきれいに
分類されて、透明のケースに
納められている。見ているだ
けで楽しく、何か作ってみた
くなる。廃材が創作のための
素材に生まれ変わったようであ
る。
大月さんに「見立て」につ
いて話を伺ってみた。大月さ
んの活動の原点は、端材を用
いて遊んだ、幼い日の「見立
て遊び」だそうである。「見立
て」は「アートの入り口」で
あり、個性的な形の廃材には
想像を膨らませる鉤(かぎ)
があるとお考えであった。ま
た、近年は学校でもリサイク
ル用品を用いた創作活動が盛
んだが、子どもの作品が再び
ゴミになるような活動にはし
たくないと言われた。
再利用の視点から「一式飾
り」を見れば、作品に用いた
道具は解体後も大切に保管さ
れ、新たな作品の材料として
繰り返し利用される。それと
共に、一つの道具の形をさま
ざまに見立てることで想像力
が鍛えられ、創造力が育まれ
る。「一式飾り」は究極の「ク
リエイティブリユース」と言
えるのではないだろうか。